



経済学部 経済学科 山本俊一郎(やまもと しゅんいちろう)教授

地域ブランドや産地の力に着目し、衰退しつつある
中小企業が生き残っていくための付加価値を調査・研究

■ 衰退過程にある日本の地場産業を調査・研究。新たな付加価値をつけて生き残っていくためには？

経済地理学の専門家である山本俊一郎教授は、日本の中小企業の中でも斜陽産業と捉えられている機械部品・日用消費財などの製造業をテーマに研究しています。縮小・衰退していく地場産業の集積地域の競争力や変容の過程に着目して研究し、地域ブランドとは何か、産地の力とは何か、新たな付加価値をつけて今後存続していくためのヒントを明らかにしています。

近年の研究テーマは、かつては差別産業とされてきた歴史のある東京都墨田区の皮革関連産業です。この地域では既存の生産構造が崩壊してくなかで、若手クリエイターを中心に新たな作家ブランドが生まれており、皮革産地が“産地ブランド”から“企業ブランド”へ変容して生き残っていく過程を調査しています。また京都の伝統工芸品の産地や地域ブランドの研究、宮城県石巻市の雄勝硯産地の研究、国際競争下における北九州の金型産業の現状と課題など、日本各地の様々な事例を現地調査を行いながら研究を進めています。

■ 東淀川区の中小企業を事例に、産学連携事業や異業種交流における課題を調査

山本ゼミでは、大阪市東淀川区の産学連携事業における中小企業が抱える課題や、地域活動協議会が抱える課題解決のために、ヒアリング調査やイベントの実施などを行っています。地元のストーリーを作ることで価値を上げていく、“ないものねだり”から“あるものさがし”をする地元学を標榜し、地域ブランドの構築についてフィールドワークを行いながら考えています。

■ 2017年度「大阪市内ものづくり企業と学生の交流事業」がスタート

山本ゼミでは、2015年より、大阪市経済戦略局と連携し、大阪市内のものづくり企業と交流しながら、企業の抱える課題に対して若者の発想から解決策を提案しています。2018年度は、鋳物製造企業である「株式会社三共合金鋳造所」と日用品市場への参入のための新商品開発について検討してきました。また、履物製造卸企業である「有限会社シューズ ミニッシュ」と効果的な社員研修や社員食堂のあり方、地域に根差した企業となるために必要な方策について検討しました。

山本俊一郎教授 プロフィール 詳細はこちら⇒<http://web.j8.osaka-ue.ac.jp/ouehp/KgApp?kyoinId=yymdeyybgy>

1974年生まれ、香川県出身

経歴：東北大学大学院理学研究科、2005年～本学教授、2019年～本学学長

論文：”Expansion of Kyoto city's traditional crafts sector into overseas markets” *Geographia Polonica*, 86(2), (単著 2013)
「国際競争下におけるプラスチック金型産業の現状」(『経営経済』2016年)

主な著書：「大都市産地の地域優位性」ナカニシヤ出版、(単著 2008)

所属学会：日本地理学会、人文地理学会、経済地理学会、東北地理学会

受賞歴：東北地理学会研究奨励賞(長谷川賞) 2008年

< 本件に関するお問い合わせ先 >

大阪経済大学 企画部広報課 高濱 TEL: 06 - 6328 - 2431 Mail: kouhou@osaka-ue.ac.jp

大阪経済大学 広報デスク (プランニング・ポート内) 福嶋、小宮 TEL: 06 - 4391 - 7156

<https://www.osaka-ue.ac.jp>